

# 京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2014年9月30日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第11号

## 多文化共生とは？



ネットワークサロンで演奏された東九条マダンのブンムル

「多文化共生」という言葉は、心地のよい雰囲気漂わせながら使われることが多いと思います。「多文化共生」のイメージは、グローバル化する日本で、様々な外国籍市民と日本人が仲良くなり、お互いを尊重しながら住みやすい社会をつくるといったものでしょうか。文化の違いを異国情緒ぐらいにとらえていれば、このような心地のよいものになるでしょう。しかし、現実はどうでしょうか。異なる文化を持つ少数者は地域社会の異物としてとらえられ、排除の対象となり生

きづらい生活を送らざるを得ないことが多々あります。このため、「多文化共生」とは、今ある現状のことを言っているのではなく、目指すべき理想の姿のことではないでしょうか。

昨年、ネットワークサロンから『多文化社会を生きる』と題して講演録を刊行しました。当初は、『多文化共生社会を目指して』や『多文化共生社会を生きる』を考えていたのですが、最終的に『多文化社会を生きる』にしました。日本社会はすでに「多文化社会」になっているのですが、残念ながら「多文化共生社会」にはなっていないからです。

ネットワークサロンは、事業として様々な取り組みをおこなっていますが、文化的な違いからトラブルがおこることもあります。例えば音の問題です。民族的な歌や楽器の演奏は参加者にとっては心身ともに解放されるものですが、この文化が「騒音」ととらえられてしまうこともあります。防音対策がとられていない施設なので、しばしば苦情の原因にもなっています。ネットワークサロン事業の中でも「多文化共生」を実現していくことは、生やさしいことではないことを日々感じています。

(前川 修 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン)

## 世界の料理教室 スリランカ篇



大人気の「世界の料理教室」

ンカレー、ワタラッパン（スリランカのプリン）。

聞いたことのないスパイスの名前や、ココナッツのふりかけのように、想像のつかない料理に、参加者のみなさんは興味津々。どんどん積極的に質問をしていくのが、世界の料理教室の参加者さんたちのいいところです。そのことで、講師の方との距離も、ぐんと縮まります。今回も、不安そうにされていた講師のお二人を、参加者のみなさんが、すぐに和ませてくれました。

お米が炊けない!! プリンがふくらまない!! などのハプニングがありながらも、無事に試食タイムを迎えることができました。スリランカでは、全部をワンプレートに盛り付け、右手でまぜながらいただくそうです。ひとつひとつのメニューは、もちろんおいしかったのですが、それぞれの味が引き立てあっていることにみなさん納得されていました。みなさんの感想はもちろん「おいしい!!」。

今回の料理教室では、難民やその支援についての話にはあまり触れていませんが、10月25日（土）のボランティア講座では、PASTELの学生さんによる難民支援の活動報告を予定しています。興味のある方は、ぜひご参加ください。お待ちしております。

（宇山 世理子 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン）

6月21日（土）に開催された2014年度第1回目の料理教室は、「スリランカ料理」でした。京都の学生が難民支援のために立ち上げたサークル「PASTEL（パステル）」の紹介で、スリランカ人の女性2名が講師として来てくれました。また、PASTELのメンバーの学生3名もスタッフとして参加してくれました。メニューは、アラ・テンプレート（じゃがいもの炒め物）、ポルサンボール（ココナッツのふりかけ）、チキン



日本ではあまり馴染みのないスリランカ料理の数々



登録団体  
共同企画

## 日本自立生活センター × ネットワークサロン 2014年度第2回ボランティア講座

7月19日（土）、京都市地域・多文化交流ネットワークサロンにおいて、2014年度第2回ボランティア講座「もっと知りたい『障害』のこと。～京都府条例から、差別をなくす取り組みを考える～」を開催しました。今回、講師にお迎えしたのは公益財団法人世界人権問題研究センター研究員の松波めぐみさんです。

京都府では、2015年4月1日より、「京都府障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らしやすい

社会づくり条例」が施行されます。この条例では、障害を理由とする不利益な取り扱いの禁止や、社会的障壁を除去するための合理的な配慮を提供する義務などが定められています。今回の講座では2006年に国際連合で採択された障害者権利条約の特長や、松波さんご自身が京都府の条例制定に携わった経験を踏まえて、京都府条例の意義と概要を学習しました。

かつて、「障害」は「個人の身に起こる不幸な出来事」と見られていましたが、現在は、様々な障壁（バリア）によって一部の人を排除してきた「社会のあり方」こそが問題とされつつあります。京都府条例をはじめとする法律や条例は、「社会のあり方」を変えていくための「しくみ」として必要であり、「何が差別にあたるのか」という「ものさし」を整えるという意味があるとのことでした。「障害」の捉え方が大きく変わりつつあることを教えていただきました。

（本郷 浩二 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン）



松波めぐみさん



## 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 夏休み特別企画

**ジェンベであそぼう!!** ~たたいて、おどって、みんなですっきり~

ジェンベの演奏に子どもたちも踊り出しました

2012年度夏の特別企画「ジェンベワークショップ」で西アフリカの伝統打楽器ジェンベのリズムに合わせて、誰よりも楽しそうに踊っていた、〈障害のある中高生のタイムケア事業れいんぼう〉の子どもたち。保護者や職員の「またやりたい!!」という願いをアフリカンドラムサークル douniyah-kan (ドゥニヤカン) のみなさんにお伝えしたところ、快く引き受けてくださいました。

8月9日(土)に開催された今回の夏休み特別企画では、〈タイムケアれいんぼう〉と呉竹総合支援学校の保護者サークル「呉竹余暇体験サークル」が共催として参加してくれました。当日は台風接近で大雨。残念ながら、車いすでの移動が困難で来られなくなった方たちもいました。それでも、子ども大人合わせて50名ほどの方々が集まってくださいました。

ジェンベやドゥンドゥンの音が鳴り出すと、さっそく、〈れいんぼう〉の子どもたちが踊り出して盛り上げてくれました。douniyah-kanの演奏で踊り、トークで大笑いし、西陣のタイムケアのメンバーのマイクを奪っての飛び入り参加に大笑いし、クイズに答える子どもたちの珍回答に大笑いし…と最初から最後まで笑っぱなしの時間でした。障害をもつ子どもたち、もたない子どもたち、保護者、職員がお互いの「そのまんま」を受け入れあって盛り上がった、最高のLIVEになりました。

(宇山 世理子 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン)



参加者全員で記念撮影

〈シリーズ〉登録団体との連携・紹介 (11)

## FETJ (Filipino English Teachers in Japan)

FETJ (Filipino English Teacher in Japan) は、日本で暮らすフィリピン人の英語教育者を支援する団体です。会員への定期的な研修による英語教育スキルの向上と、継続的な情報提供、就職の支援などをおこなっています。また、教育委員会など関係機関との連携もめざしています。英語教育のスキルを高めることで、フィリピン人英語教育者への信頼を確かなものとし、日本で暮らすフィリピン人の生活向上に繋がりたいと考えています。現在では外国人のコミュニティだけでなく、日本社会でも認められ、評価されています。

FETJ を創設した Aurora Dobashi 会長は、フィリピン人がどんな場所、どんな分野でも努力し、成功する可能性を持っていると信じていました。その理想を共有し、創立以来ご支援をいただいた方々の協力もあって、FETJ は高い実績を挙げています。

2000 年以來、「Kababayans (フィリピン人の仲間たち)」へのセミナーやワークショップを実施しており、大人も子どもも共に学び合い、スキルを高めることで、強いコミュニティを作ってきました。現在は日本のあちこちに支部があり、ネットワークが広がっています。Dobashi 会長も、英語教育のスキルと信頼を高めるため、会員の研修に努めています。

私自身も京都市地域・多文化交流ネットワークサロンで開催された2日間のセミナーに参加し、多くのことを学びました。現在は、運良く FETJ 京都支部の第1期役員に選出され、会計を担当しています。また、ネットワークサロンの前川センター長にご協力いただき、セミナーの成果を活かして、ネットワークサロンで自主的な英語教室を開催しています。

(西村メリアン FETJ)

### VISION :

私たちは、英語教育のスキルを高め、大人と子どもが共に学び合うことで、日本で暮らすフィリピン人英語教育者のコミュニティがより豊かになることを望んでいます。

### MISSION :

FETJ は会員への定期的な研修による英語教育スキルの向上と、継続的な情報提供、就職の支援などを通じて、日本で暮らすフィリピン人の英語教育者を支援する団体です。

### OBJECTIVES :

1. 国内に複数の支部とネットワークを組織する。
2. 会員への定期的な研修を開催し、英語教育のスキルと信頼を向上させる。
3. 会員向けの教材を作成する。
4. SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サイト) を通じて会員に向けた情報を定期的に発信する。
5. 会員の就職を支援する。
6. 地域における英語や他の言語に関する市民活動やプログラムへの会員の参加を奨励する。

### ACTIVITIES:

1. 英語教育免許認定コース
2. セミナー/ワークショップ (言葉づかい、演劇、手芸など)
3. FETJ 年次報告会



# ネットワークサロン図書室のご案内



ネットワークサロン図書室の開架図書

京都市地域・多文化交流ネットワークサロンでは、地域福祉の向上と多文化交流の促進を目的に、2つの会議室に蔵書を架蔵しており、どなたでもご利用いただける図書室として公開しています。

この図書室では、東九条地域の特色を踏まえて、在日コリアンや被差別部落をめぐる問題についての図書・資料を中心に、社会福祉・社会政策や多文化共生、宗教、京都の歴史・社会・文化、東アジア関係史、これらに関わる文

学作品など、多様なテーマの図書や資料を閲覧していただくことができます。

これらの蔵書は、これまでにネットワークサロンと関わりの深い方々よりご寄贈いただいたものがほとんどです。ご寄贈いただいた図書は未整理・未登録のものも多いため、今後も整理・登録作業が終わったものから順次開架していく予定です。

また、東九条地域の住民団体や社会事業団体の発行物、行政資料、街の変化を捉えた写真や映像など、多様な地域資料の収集・保存・整理も進めており、これらは資料室において架蔵・公開しています。

今後は、公共図書館や大学図書館、各種研究機関等とも連携しながら、地域資料が充実した専門図書館としての機能を持ったスペースとして、利用者の多様なニーズに応えていきたいと考えていますので、生涯学習や研究活動、人権研修等に幅広くご活用ください。

## ☑ 開室時間

・午前9時から午後5時まで

※ 土・日・祝日および時間外の利用はご相談ください。

※ 会議室利用中は入室できません。できるだけ事前にお問い合わせください。

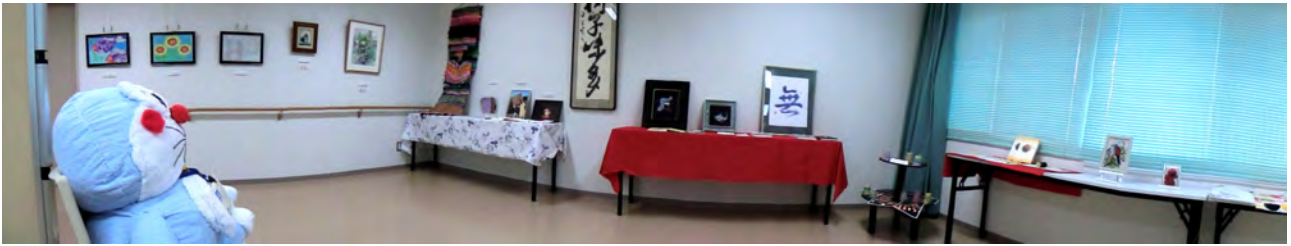
## ☑ ご利用

・原則として閲覧のみ

※ 複写および貸出についてはご相談ください。

〈サロン利用者の声〉

## Artfesta 2014 を終えて



2014年8月23日(土曜日)～8月25日(月曜日)までの3日間、ネットワークサロンの多目的ルームをお借りして「車イスと仲間の会40周年、日本自立生活センター30周年、ワークス共同作業所もうすぐ20周年、自立支援事業所10周年」の記念プロジェクトのイベント「Artfesta 2014」を開催させていただきました。

日本自立生活センターワークス共同作業所が中心となって開催されたこの取り組みは今まで諸先輩の方々が切り拓いてこられた自立生活運動の流れを次代の障害を持つ当事者に引きつぎ、新たな未来へ繋げていきたい、という思いを込めてタイトル・テーマを「未来へ繋ぐ」としました。

招待作品も含めて40作品以上の作品を出展していただきました。当事者の作品のみならず関係機関の健常者の方々の力作もありました。作品の出展者を障害当事者のみとせずに関係者も含めたのには、互いの理解を深めながら既成概念の変革にチャレンジしたい、との強い思いがありました。

開催期間中は120名以上の方々にご来場をいただきました。ご近所の方々やネットワークサロンのスタッフのみなさまにもご来場していただきました。心から感謝いたします。

ありがとうございました。

(大崎 雅彦 ワークス共同作業所)



力作が並んだ Artfesta2014

〈サロンへのメッセージ〉

## 多世代・多文化ふれあいコミュニティ

京都YWCAは2011年度よりサロンに団体登録をさせていただいています。上京区にある京都YWCAとサロンとは地理的に離れているのでなかなか紹介させていただく機会がありませんでしたが、この場を借りて私たちの自己紹介をさせていただきます。

1923年に設立された京都YWCAは、女性や子どもの人権が守られる社会、異なる文化や背景をもつ人々と共に生きる社会をめざし、さまざまな事業や活動を行ってきました。90周年を迎えた今、理念を更に具体的に実践するため、2014年より3つの事業（自立援助ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、ふれあいの居場所食堂）に着手しました。従来から続く留学生寮「あじさい寮」（定員：女子20名）とともに乳児から高齢者まで、さらには多様な文化的背景を持つ人々が「交流」し「協働」するコミュニティをめざしています。

### 自立援助ホーム「カルーナ」

児童養護施設を退所した後等、社会的養護が必要な児童のための自立生活援助事業。15-18歳の女子を対象にし、「受容と見守り」を基本に、自活・自立できるようになるまで「安心・安全な生活空間」を提供します（2015年4月よりスタート）。

### サービス付き高齢者向け住宅「サラーム」

60歳以上の女性を対象にしたバリアフリー独立型8室。見守りと生活相談サービスを提供しています。入居の方々に、京都YWCAのさまざまなプログラムを通して人々との交流や社会参加の機会を提供し、充実した生活を送っていただきます。2014年9月より入居開始。

### ふれあいの居場所食堂「うららかふえ」

歴史あるヴォーリズ設計の建物の一部を改装してカフェとし、会館に住む方、会館で活動する人々、地域の方々に利用していただき、人々の交差点となる「ふれあい空間」を創ります。タイやフィリピン出身者も含めた日替わりシェフのランチ（600円）やフェアトレードコーヒーを提供します。2014年9月9日オープン。



うららかふえスペース

一足先にコミュニティづくりをはじめられているサロンにアドバイスをいただきながら一歩ずつ進めてまいりたいと思います。ぜひご注目ください！

（京都YWCA 岡 佑里子）

- 所在地：〒601-8006 京都市南区東九条東岩本町31（京都市地域・多文化交流ネットワークセンター内）
- TEL：075-671-0108 □ FAX：075-691-7471 □ E-Mail：salon\_kyoto@ck9.so-net.ne.jp
- 開館時間：9時～17時 □ WEBサイト：http://www016.upp.so-net.ne.jp/k\_salon/
- JR 京都駅・京阪東福寺駅・市営地下鉄九条駅 徒歩15分
- 京都市バス 42・202・207・208 系統 九条河原町下車 徒歩10分